

本当の気持ち

益田市立東陽中学校 一年 澤江彩乃

私は七人家族です。私の家には祖父、祖母そして曾祖母が居ます。皆で一緒に住んでいます。

曾祖母は軽度の認知症で、同じ言葉を一日に何度もくり返し言い、それを私はよく聞きます。そして一人の時はリズムを取り鼻歌をよく唄っています。曾祖母は昔、安来節をやっていて、その名残りなのかも知れません。

ある日、私は曾祖母の隣の部屋で過ごしていると、電気が点いていたのが気になったようで、曾祖母がのぞきました。そして、

「部屋を出る時は、ちゃんと電気を消して出んちゃいよ。」

と注意しに来ました。初めのうちは、

「分かった、ありがとう。」

と優しく返していましたが、数分の内に二度三度とくり返し注意しに来るので、さすがに面倒臭く、適当に返事をするようになっていました。何回も同じ事を言いに来る曾祖母に対して隣の部屋に居た祖父が、

「何回も言わんで良い。」

と大きな声で怒鳴りました。祖父は元々怒りっぽい性格なので、よく曾祖母に向かって怒鳴っています。私も曾祖母の行動にイラッとすることはあるけど、さすがに怒鳴るのはやりすぎだし、曾祖母がかわいそうだと思う事もありました。

別の日には、お風呂に入ったにも関わらず、外に出て地べたに座り込んで草抜きをしていました。いつも曾祖母のお世話をする祖母も、曾祖母の行動に怒りと呆れを感じていました。曾祖母は二度目のお風呂に入り、お風呂に入れなかった父も怒っていました。

小学校六年生の夏休み、ある事件が起きました。祖母が昼食に置いておいたお湯を注ぐタイプのインスタント麺を、曾祖母は分からず、電子レンジで加熱してしまったのです。家族は皆出掛けていて、家には私と曾祖母の二人だけでした。私は外で絵の具用パレットを洗っており、洗い終わったので勝手口から入ったら、電子レンジの中が燃えていました。私は驚いて慌ててレンジを止めました。幸い火事にはならなかったけど、隣に居た曾祖母はずっと泣いていました。私は、

「大丈夫？ケガしてない？」

と声を掛け、曾祖母にケガがなく無事だったので安心しました。でも曾祖母はずっと

「ごめんね、ごめんね。」

と泣きながら謝り続けていました。それから、母が帰って来て私は事情を説明しました。母は、

「ケガがなくて良かった。」

と言い片付け始めました。曾祖母にも、

「大丈夫、驚いたね。」

と声を掛け、曾祖母も落ち着き一日が終わりました。

そして、事件から数日後、母が曾祖母をデイサービスに行かせるのはどうかと祖母に提案していました。曾祖母はプライドが高いから無理だろうと祖母も諦めていました。けれど、母からデイサービスの話を知り、事件が起こった事も考えて、祖母はデイサービスに行かせる事に決めました。曾祖母も初めは嫌がっていましたが、祖母や担当の人が説得を重ね、何とか一週間に一回の頻度で利用する事になりました。デイサービスでは、怒られる事がなく、曾祖母が安来節で活躍する場面も作ってくれる様で、曾祖母は楽しんでます。曾祖母がデイサービスに行くようになり、祖父も少し落ち着き、怒鳴り声もあまり聞かなくなりました。

私は、祖父が曾祖母を怒る事が多く、私自身もイラッとする事があり、曾祖母に良い印象を持っていませんでした。それは軽度の認知症を理解していなかったからだと思います。曾祖母は昔から優しく、色んな事を教えてくれる良い人です。それは軽度の認知症になった今でも変わりません。人には誰にでも苦手な事があると思います。軽度の認知症は苦手な事が増え、今まで出来ていた事が出来なくなる脳の病気だと母に教えてもらいました。曾祖母は軽度の認知症です。軽度の認知症でも一人の人、曾祖母には変わりありません。これから苦手な事や出来ない事が増えるかもしれません。ですが、それも受け入れ、曾孫としてサポートしていきたいと思います。近所や地域に居るお年寄りの方にも話しかけ、話し相手になって少しでも笑顔を増やせたら地域がもっと明るくなると思うので取り組んでいきたいです。